大分合同新聞

ワークシート　　年　　組　　名前

総務省が主要都市を対象にまとめた家計調査によると、前回は大分市が全国トップの購入量だった２品目は明暗が分かれました。

（2021 年 7 月 11 日付大分合同新聞 8 面）

大分市の全国購入量ランク

乾シイタケ貫禄10連覇

鶏肉は４位 V３ならず

3市伸び、及ばず

乾シイタケは堅守、鶏肉は陥落―。総務省が主要都市を対象にまとめた家計調査によると、前回は大分市が全国トップの購入量だった2品目は明暗が分かれた。県が生産量日本一を誇る乾シイタケは記録のある10年連続で首位の座を保ち、3連覇のかかった鶏肉は4位に後退。新型コロナウイルスの影響で自宅の調理機会が増え、他の地域でも価格が手頃な鶏肉の人気が高まったとみられる。

大分市民の食の特徴は？

全国順位	購入量	全国順位	支出金額
1	乾シイタケ	1	――
2	焼酎	2	酢
3	アサリ、サトイモ	3	アジ、チョコレート菓子、焼き肉
4	即席麺、鶏肉、ミカン、柿	4	――
5	イワシ	5	キャンディー、ハンバーガー
⋮		⋮	
48	乾うどん・そば、シラス干し、ブロッコリー、オレンジ	48	サラダ、しゅうまい、焼き鳥
49	サケ、タコ、ソーセージ、清酒	49	マグロ、豚肉、ホウレンソウ、カボチャ、豆腐、総菜材料セット
50	バター、カレールー、ビール	50	さや豆、調味料
51	――	51	ソース、つゆ・たれ
52	中華麺	52	乳酸菌飲料

※都道府県庁の所在地、政令指定都市の計52市区が対象。―― は該当なし。支出金額は購入量との重複を除いた

家計調査は毎年、都道府県庁の所在地、政令指定都市の計52市区をランキングしている。2人以上の世帯が対象。14分類した品目別に、直近3カ年（2018～20年）平均で年間の購入量や支出金額を出した。

乾シイタケは購入量、金額ともに大分市が全国トップ（110グラム・825円）。2位の鹿児島市（77グラム・704円）を寄せ付けなかった。

県椎茸農協の阿南輝芳直販営業部長代理（48）は「ありがたい。地域に食文化が根付いている証しだ。ただ愛好者が高齢化し、年々消費量は減っている。若い世代へのアプローチが課題」と話す。

昨年まで2年連続1位だった鶏肉の購入量は熊本、福岡、鳥取各市に次ぐ4位（21・2キロ）に落ちた。鳥天や唐揚げが大分県民のソウルフードとして広く親しまれており、大分市の購入量は前回を431グラム上回ったにもかかわらず、追い抜かれた。

トキハインダストリー若草公園店（大分市中央町）の衛藤真一店長（48）は「低脂肪とヘルシーで年々売り上げは増えている。4位に下がったと聞いて不思議な気持ち」と驚いた様子。

同市王子西町で食育研究所を主宰する立松洋子さん（63）＝元別府大短期大学部教授＝は「感染症の影響で在宅時間が長くなり、安価で料理しやすい鶏肉の需要が他の地域で伸びたのだろう」とみている。

ほかにも大分市民の飲食に支出する特徴が浮かぶ。

焼酎の購入量は宮崎市に続いて2位（14・3リットル）にランクインし、県内に麦焼酎メーカーが多い実情を反映した。一方でビールは50位、清酒は49位と下位。外食は焼き肉が3位（1万850円）に入り、ハンバーガーも5位（5877円）と好んでいる。麺類をあまり買わない傾向にあり、購入量は50位（28・9キロ）と全都市中3番目に少なかった。ただ、麺類でも項目別で見ると即席麺は4位と多く食べていた。

鶏肉を手に取る買い物客。大分市の購入量は増えたが、４位に後退した＝９日、同市のトキハインダストリー若草公園店、撮影・仲道裕司

① 調査概要について（　　）に入る言葉を書いてください。

対象は、都道府県の（　　）、政令指定都市の計 52 市区の（　　）人以上の世帯。毎年、品目別に直近３カ年平均で年間の購入量や（　　）を出し、ランキングしている。

②調査結果について（　　）に入る言葉を書いてください。

・大分県が生産量日本一を誇る（　　）の購入量は 10 年連続で（　　）市が全国トップだった。

・2 年連続で大分市が全国トップの購入量だった（　　）は、前回を 431 グラム上回る購入があったが順位が 4 位に落ちた。

③乾シイタケや鶏肉を使った料理を挙げてください。

（乾シイタケ）

（鶏肉）